

Oracle CloudのUS National Security Region

次世代のクラシファイドクラウド

Oracle CloudのUS National Security Region (ONSR) は、最も高い米国政府の機密種別基準を満たすOracle Gen 2 Cloudのリージョンです。フルスケール、フルサービスの商用Oracle Cloudリージョンと同じように、ONSRは高度に保護された施設に構築されています。これらのリージョンは、政府認定の米国市民によって運用され、米国政府のセキュアなネットワークにのみ接続されています。

米国の国防およびインテリジェンスコミュニティへのサービス提供に特化したこれらのNational Security Regionは、Secret、Top Secret、SCI、およびSAPワークロードをサポートしており、国防総省のインパクト・レベル6 (IL6) およびIntelligence Community Directive (ICD 503) 認定の規制要件およびコンプライアンス要件を満たす、またはそれを超えるセキュリティ管理を行っています*。

National Security Regionのオペレーションはすべて、安全に管理された専用のカスタマー・オペレーション・センターで、米国政府の認定を受けたエンジニアによって行われます。

セキュアなミッションクリティカルなアプリケーションに適した完全なクラウド

オラクルのGen 2 CloudによるInfrastructure-as-a-Service、Platform-as-a-Service、Software-as-a-Service (IaaS、PaaS、SaaS) およびMarketplaceサービスのフル・スイートを活用し、National Security Regionのすべてで利用できます。

資本支出 (CapEx) が不要なので、スケーリング、設計、運用の管理を完全に柔軟に行うことができます。

高速でセキュアなネットワーク接続

インターネットからもオラクルの社内ネットワークからも完全に分離されたONSRは、政府が指定した分離ネットワーク (SIPRNet、JWICSなど) のみに接続されています。

ソフトウェア更新などのデータを、機密度の低い層から高い層のネットワークへ送信するためには、クロスドメインで一方通行の「ネットワーク・ダイオード」が使用されます。顧客の承認とサニタイズを経ない限り、いかなるデータも機密エンクレープから出ることはありません。

米国政府認定スタッフが管理する24時間365日の運用とサポート

専用のセキュアなオペレーション・センターでサポートおよび管理されるONSRには、米国政府の最高レベルのセキュリティ・クリアランスを持つオラクル社員が24時間体制で常駐しています。

オペレーション・センターは、業界最先端のオラクルのエンタープライズSLAに基づいてクラウドの運用・保守を行い、問題解決のために24時間365日のカスタマー・サポートを提供します。機密ネットワーク上の専用チケット・システムによって、セキュアなインシデント管理を実現しています。

信頼されるセキュリティ・ファーストの設計とコンプライアンス

セキュリティ・ファーストの設計の原則には、分離されたネットワーク仮想化および初期の物理ホストのデプロイが含まれます。これにより、従来のパブリック・クラウド設計よりも適切にお客様を分離でき、APT攻撃によるリスクが軽減されます。

米国政府の最高レベルの規制要件およびコンプライアンス要件を満たすように構築されているため、内部統制、データ保護、規制遵守に関して最高レベルの独立した保証が得られます。

ONSRのサービスはすべて、FedRAMP High、DoDインパクト・レベル6、およびIntelligence Community Directive 503の要件を満たすように構築、実装、監査されます。

*Oracle National Security Regionsは現在、認定待ちです。使用を始めるには、営業担当者にお問い合わせください。

製品/サービス

ミッションの近代化

世界でもっとも機密性の高いデータを、基盤となるインフラストラクチャの導入や管理の負担なく保護することができます。Oracle Cloudの変革力を活用して、ミッションクリティカルなアプリケーションのイノベーションを推進します。

高速でスケラブルなコンピュート・リソース：Oracle Cloud Infrastructureのコンピュート・サービスは、シングルコアの仮想マシン（VM）から、大規模クラスタにおける64コアのベアメタル・インスタンスまで、従来型のアプリケーションとクラウド・ネイティブなアプリケーションの両方で大規模なスケールを実現します。

ガバナンスと管理を統合：Oracle Cloud Infrastructure Identity and Access Management（IAM）では、クラウド・リソースへのアクセス権を持つユーザーを制御できます。ユーザー・グループがどのような種類のアクセス権を持っているか、どのリソースにアクセスできるかを制御できます。

自律型データベースとExadata Cloud：Oracleデータベースを容易に構築、スケーリング、保護でき、ライセンス込みの価格設定、またはライセンス持ち込み（BYOL）用の価格設定を利用できます。データベースはVM、ベアメタル・インスタンス、またはExadataインスタンス上に作成できます。その後、Oracle Cloud Infrastructureのデータベース・サービスと既存のツール、Oracle Recovery Manager（Oracle RMAN）、データベース・コマンドライン・インタフェースを使用して、クラウド上のデータベースをオンプレミスの場合と同様に管理できます。

物理環境と仮想環境にまたがるネットワーク：高度にカスタマイズされたセキュアなVCNと、予測可能で安定したパフォーマンス、分離、高可用性を提供する接続サービスによってITインフラストラクチャを拡張します。

政府のためのOracle Cloud Infrastructure

世界中の政府機関にイノベーションをもたらす、包括的で標準準拠のクラウド・ソリューション
Oracle Cloudの米国政府リージョンは、ミッション・クリティカルな政府機関のワークロードをサポートするべく構築された、高度にセキュアなエンタープライズ規模の政府向けコミュニティ・クラウドを提供します。

連邦政府、州政府、地方政府の各機関は、オラクルの米国政府リージョンを利用して、オンプレミス・ワークロードの移行を加速し、クラウド・アプリケーションを利用してビジネス・プロセスを最新化して、クラウドにおけるテクノロジー・イノベーションを安全に推進しています。

4つの米国政府レルムと9つの米国政府リージョン



オラクルには、お客様と密接に協力して、機密性の高いデータ・ワークロードのセキュリティを保護してきた長い歴史があります。National Security Regionは、何よりもセキュリティを重視するお客様のために、このコア・コンピテンシーをクラウド化する機会を提供しています。オラクルのセキュリティ・アプローチは、中心となる7本の柱を基盤にしています。その柱ごとに、プラットフォームのセキュリティとコンプライアンスを最大化する複数のソリューションが用意されています。

- 顧客の分離を完全に実施
- データ暗号化に関するFIPS 140-2標準に準拠
- 包括的なセキュリティ管理
- ログ・データとセキュリティ分析による**完全な可視性**
- サードパーティのセキュリティ・ソリューションにも適応するハイブリッドのクラウド・セキュリティ
- 障害のないデータセンターで**高可用性**とスケール・アウト・アーキテクチャを実現。ネットワーク攻撃に対してレジリエンスを備える
- 第三者による監査と認定を受け実績を積んだ、検証可能なセキュア・インフラストラクチャ

www.oracle.com/industries/public-sector/federal/national-security-regions/